

公益社団法人 日本臨床細胞学会  
2022年度第1回理事会 議事録

日時： 2022年4月23日（土） 13:00-16:00  
場所： 日本臨床細胞学会事務局 会議室  
WEB 同時開催

役員総数： 42名（理事 39名、監事 3名）

出席総数： 理事 37名

（理事）（現地） 佐藤 之俊、齋藤 豪、進 伸幸、田畑 務、前田 一郎

（理事）（WEB） 阿部 仁、有廣 光司、伊藤 仁、伊藤 潔、井上 健、伊豫田 明、植田 政嗣、榎本 隆之、大平 達夫、岡本 愛光、小笠原 利忠、小田 瑞恵、川名 敬、澁木 康雄、田尻 琢磨、都築 豊徳、長尾 俊孝、中村 直哉、羽場 礼次、廣岡 保明、藤井 多久磨、松浦 祐介、三上 芳喜、宮城 悦子、森井 英一、森谷 卓也、矢納 研二、山口 倫、横山 正俊、横山 良仁、若狭 朋子、渡利 英道

出席総数： 監事 3名

（監事）（現地） 長村 義之、土屋 眞一

（監事）（WEB） 佐々木 寛

（総務委員会委員）（WEB） 山下 博

（総務委員会幹事）（WEB） 片岡 史夫、星 利良、和田 直樹、佐々木 陽介

（制度審議委員会幹事）（WEB） 佐々木 陽介

（中田公認会計士事務所）（WEB） 中田 ちず子

本理事会は、定足数を満たしたので有効に成立した。

テレビ会議システムにより、出席者の音声は即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時適格な意見表明が互いにできる状態が確認され、議題の議事に入った。

議長： 進 伸幸 総務委員会委員長の司会進行

本議事録において定款第23条第3項で定める、理事長、副理事長及び常務理事の職務執行状況報告については\*印を付す。

本理事会の開催にあたり、\*佐藤之俊 理事長、\*森井英一 副理事長[総括、事務局運営、編集]、齋藤豪 副理事長[専門医制度、専門医、臨床研究]、中村直哉 副理事長[認定試験、検査士、教育]、岡本愛光 副理事長[財務、渉外]の挨拶および報告が行われた。

\*理事長報告・挨拶 (佐藤 之俊)

今回の理事会もハイブリッド形式で開催する。ご協力をお願いしたい。  
新型コロナウイルス感染の状況も未だ収束に至っていないものの、社会活動の再開や持続に向けた方向で国内・国際的にも転換してきている。本学会に関してもコロナ禍の活動制限に対してギアチェンジし、学術的な点およびその他事業を進める方向で考えている。また、本日の重要な審議事項として、2021年度決算案、2021年度事業報告案および総会案内があり、しっかりとした審議をお願いしたい。

\*副理事長報告 (齋藤 豪、中村 直哉、森谷 卓也、森井 英一、岡本 愛光)

齋藤 豪 副理事長： 子宮頸癌検診における HPV 検診の導入に関しては、様々な学会でも方向性がまだ定まっておらず、本格導入には時間がかかると思われるが、当学会としては専門医を通じて精度管理や教育の点で学会のプレゼンスを示していきたい。

中村 直哉 副理事長： 今年も引き続きコロナ禍における試験・教育等にご協力をお願いしたい。特に、検査士試験の改革を進めていく。

森谷 卓也副理事長： 学術においては、前田一郎学術委員会委員長を中心に引き続き取りまとめをよろしくをお願いしたい。国際的なことについては、2022年11月に米国で開催予定の ICC の対応を鋭意進める。

森井 英一 副理事長： 評議員選出をオンライン審査にて行い、評議員候補者が決定した。出てきた問題点に関しては、次回の選出時に向け改善していく。

岡本 愛光 副理事長： 本日は、2021年度の決算案および事業報告案の審議をお願いしたい。

前回 (2021年度第4回理事会) 議事録について

2022年度第4回理事会の確認が行われた。

総務庶務報告 (2022年4月12日現在)

全会員数：12,963名

(正会員 5,715名、準会員 7,003名、名誉会員 39名、功労会員 191名、図書会員 15名)  
細胞診専門医および細胞診専門歯科医数：3,184名(実数)

(認定：細胞診専門医 3,935名、細胞診専門歯科医 114名)

FIAC：110名 MIAC：33名

細胞検査士数：8,054名(実数)(認定10,870名)

CT(IAC)：3,790名

物故会員 (2022年1月19日～2022年4月12日)

功労会員 藤吉 行雄 殿 (名古屋市立大学 臨床病態病理学講座)

長浜 真人 殿 (鈴鹿回生病院)  
准会員 角田 耕造 殿

#### 会費滞納者

3年滞納者：専門医8名、医師61名、検査士32名、技師8名  
上記については、2022年度第2回理事会で資格停止について検討される予定  
お知り合いの先生には会費納入をお勧めください

#### 復会希望者 (2名)

熊谷 直哉 (弘前大学医学部附属病院 病理部)  
古野 敦子 (横須賀共済病院 産婦人科)  
復会の可否については、2022年度第2回理事会で検討される予定

#### 大会準備状況

第63回春期大会 (岡本 愛光、グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール、2022年6月10日 (金) ~12日 (日))、第61回秋期大会 (伊藤 潔、仙台サンプラザホテル・ホテル仙台ガーデンパレス、2022年11月5日 (土) ~6日 (日))、第64回春期大会 (藤井 多久磨、名古屋国際会議場、2023年6月9日 (金) ~11日 (日))、第62回秋期大会 (横山 正俊、福岡国際会議場・福岡サンパレス、2023年11月4日 (土) ~5日 (日))、第65回春期大会 (森井 英一、大阪国際会議場、2024年6月7日 (金) ~9日 (日))、第63回秋期大会 (進 伸幸、幕張メッセを予定、2024年11月16日 (土) ~17日 (日)) の準備状況に関する報告が行われた。

#### 【常置・各種委員会から報告】

委員長のスケジュールの都合で、国際交流委員会と教育委員会からの報告が先行された。

#### 国際交流委員会 (委員長 榎本 隆之) 【資料1】

##### 〔報告事項〕

1. 春期、秋期大会時におけるグローバルアジアフォーラムの支援
  - ・第63回日本臨床細胞学会総会春期大会；2022年6月10日 (金) ~12日 (日)；東京  
→新型コロナウイルスの蔓延により講演の中止が決定  
(参考)
  - ・第62回日本臨床細胞学会総会春期大会；2021年6月4日 (金) ~6日 (日)；千葉  
→ real での海外演者の招聘はなし
  - ・第60回日本臨床細胞学会秋期大会；2021年11月20日 (土) ~21日 (日)；米子  
→ 開催見合わせ

- ・第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会；2022 年 11 月 5 日（土）～6 日（日）；仙台  
→開催見合わせ
- 2. 日-韓、日-タイ、日-中 合同カンファレンス（合同会議）のサポート
  - ・第 19 回日韓細胞診合同会議；2021 年 9 月 4 日（土） 韓国 → 2022 年に再延期
  - ・第 28 回日-タイ細胞診ワークショップ；会期 2022 年 1 月 19（水）～21 日（金）  
Shangri-La Hotel, Chiang Mai, Thailand は新型コロナウイルスの世界的蔓延および日本政府による海外渡航制限などの影響より再び「中止」に、再開は 2023 年 01 月を予定・検討中
- 3. JHU-ASC-JSCC 合同ワークショップ 2021 の企画、運営  
合同ワークショップ 2021 は事実上中止となった。  
2022 年度のワークショップについては Ali 先生から長村先生に 12 月に開催したいと連絡があり、3-4 日もしくは 10-11 日の開催で場所の確保を MA コンベンションに依頼している。プログラムについては 6 月以降 COVID19 の蔓延状況を見ながら Ali 先生・長村先生と調整を始める。
- 4. IAC, ECC のサポート  
Companion Meeting Japan in ECC 2020；→延期され hybrid 開催  
2021 年 10 月 3 日（日）～6 日（水） ポーランド・ヴロツワフ（日本から web 参加にて講演）
- 5. オーストラリアとの交流  
特記事項なし
- 6. カンボジアとの交流サポート  
学術集会への招請として 2 名分のトラベルグラントを計上・準備したものの現状困難
- 7. ICC2022 期間中の JSCC Companion Meeting について（資料 1）  
2022 年 11 月の ICC 開催期間中の JSCC companion meeting のプログラム案と座長案について森谷卓也委員より国際交流委員会で承認してほしいとの依頼を受け、国際交流委員会で書面審議したところ全員賛成で承認となった。なお検査士の案については現在調整中である。  
JSCC Companion Meeting は 10-12 a.m. on November 19 に確定された。
- 8. 佐藤之俊理事長より、秋の韓国細胞学会が 2022 年 9 月 2-3 日で予定されており、9 月 3 日に日韓細胞診合同会議を International Session として開催したい旨の打診があり WEB 開催の方向で調整中であることが報告された。
- 9. 長村義之監事より、ICC2022 の抄録締め切りが 5 月 2 日となっており、応募をお願いしたい旨の報告があった。

〔審議事項〕

なし

## 教育委員会（委員長 生水 真紀夫）（代理：横山 良仁）【資料1～3】

### 〔報告事項〕

1. 第83回細胞検査士ワークショップをWeb開催した（2022年3月28日から4月8日、参加者数1200人）
2. 細胞診断学セミナー：専門医制度委員会では、「Web講義受講を2022年度細胞診専門医資格認定試験の受験資格（副論文相当）とみなす」ことは可能と判断していただいた（資料1）。病理専門医受験資格（細胞診に関する講習会受講）については、「講演+鏡検」の両方の受講により受験資格を満たすことになる予定。（従来通り）
3. 2022年度各種セミナー開催予定（資料2）
  - ・第82細胞検査士教育セミナーは、現在講師の依頼中 7-8月にWeb開催予定
  - ・第84回細胞検査士ワークショップは、2022年10月1-2日に帝京大学の講義室+実習室において現地開催の方向で準備中。
  - ・第131回細胞検査士養成講習会は、開催を見送りとする。

### 〔審議事項〕

1. 第47回細胞診断学セミナー：講義をWebで実施する。鏡検を秋の第61回日本臨床細胞学会秋期大会（仙台）会期中に仙台でon siteで実施する（資料3）。

審議結果⇒承認

質疑：

- ・学会の方針として、次年度以降も対面での鏡検実習を実施していくのか否かについて→教育委員会としては、ガラス鏡検は重要であると考えており、対面での実習の実施を模索している。現時点でバーチャルやスライドを用いた形は検討していない。本日、細胞検査士委員会の審議事項においても審議する。

## 総務委員会（委員長 進 伸幸）【資料1】

### 〔報告事項〕

1. 学会内、他学会との調整を行い、円滑に学会運営が行われるようにする。
2. 評議員選出委員会にweb選挙への準備について要検討事項を伝えた。
3. 2022年4月2日に日本医学会創立120周年記念事業の記念式典・記念シンポジウムライブ配信に参加した。内容は、コロナ禍でのweb学会におけるオンライン配信における知的財産権について。
4. 地域連携組織への臨床細胞学会評議員歴情報の開示について委員会内で協議した。東京都臨床細胞学会より功労会員の細則を作るにあたって、日本臨床細胞学会の評議員歴を入れる案が出ており、細胞学会から評議員歴を提供してもらえるか？との問い合わせがあった。理事長、森井副理事長より指示を受け、地域連携組織への評議員歴情報の提供の可否について、総務委員会通信委員会を2022年4月8日から18日まで開催し、討議を行った（資料1）。情報提供は法的に問題がなく、情報提供は可と判断した。顧

問弁護士からの見解を資料1に付した。

〔審議事項〕

なし

情報処理委員会（委員長 伊豫田 明）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 学会ホームページ、マイページの改善

学会ホームページについては、「INTER GROUP」社に依頼することで決定、現在手続きを進めている。

2. 以下の依頼に対して対応した。

- ・2021年細胞診専門医資格認定試験副委員長よりメーリングリスト作成のため、2021年度細胞診専門歯科医の合格者のメールアドレスと所属の一覧の開示請求あり、例年開示している項目であるため、個人情報保護に留意して取り扱っていただくよう付記し許可
- ・福岡県臨床細胞学会のHPから学会HPへの接続依頼があり
- ・倫理委員会より、学会発表・論文投稿倫理指針について「カテゴリー分類フローチャート図」のホームページへの掲載依頼あり
- ・株式会社南江堂洋書部より、当学会HPへのバナー広告掲載申込があり、委員会審議にて「許可」と判断

〔審議事項〕

なし

学術委員会（委員長 前田 一郎）【資料1～2】

〔報告事項〕

1. 学会賞・技師賞・班研究課題の応募（応募期間：6月1日～7月1日）結果のイエローページへの掲載。
2. 最優秀論文賞の選考を行った。
3. 班研究に対するグラントナンバーを作成する。
4. 2019年特別学術研究受賞者の田中良太先生より

「2019年特別学術研究、研究助成金 研究成果報告書」「決算報告書」が提出された。

（資料1.2）

〔審議事項〕

1. 最優秀論文賞選考結果について

（日文）

青木 弘 先生

題：甲状腺穿刺吸引細胞診における液状化検体細胞診 ThinPrep®の有用性について

推薦文：評価者8割が推薦した論文である。甲状腺のLBC法（ThinPrep®）の有用性を実

務的なレベルで検証したことが高評価を得ている。最優秀論文賞（和文）に推薦する。  
（英文）

松尾 由紀子 先生

題：Method for preservation of DNA stability of liquid-based cytology specimens from a lung adenocarcinoma cell line

推薦文：本年は 11 報の論文がエントリーされた中、評価者の 5 割が推薦した論文である。

LBC 検体の臨床での残余検体の取扱いを想定し、最適な保存条件と処理方法を提案した論文である。これらの結果は、ゲノム診断への応用に向けて、有意義であるとするなど高評価であった。最優秀論文賞（英文）に推薦する。

審議結果⇒承認

## 2. 2019 年度特別学術研究費 2 研究期間 1 年延長について

松浦基樹先生 [札幌医科大学産婦人科学講座・講師]

題：自己採取法による HPV 検査の子宮頸がん検診の未受診者対策としての有効性評価

審議結果⇒承認

## 3. 大会の WEB 開催時における、オンデマンド配信について

オンデマンド配信は事務局から発信することになった中で、配信の標準化と費用負担について明確化が必要となってきた。双方向性のあるライブ配信を行った場合は高額な費用負担となるが、ストリーミング配信のみであれば格安で配信可能である。事務局の費用負担の上限は 200 万円以内（約 50 コンテンツ）とし、実務としてはストリーミング配信と受講管理を行う。その他の部分については学術集会負担となる。

審議結果⇒承認

質疑：

- ・ 配信に関わる撮影費用について・・・学術集会負担となる。
- ・ ハイブリッド開催の形式（リアルタイム、オンデマンドなど）について規定はない。
- ・ 1 コンテンツとは・・・複数の動画をひとつにまとめれば 1 コンテンツとなる。
- ・ 撮影・編集済みのものをストリーミング配信することは、事務局で対応可。第 63 回春期大会の第 1 回、第 2 回ストリーミングは事務局で対応可能であることが確認された。
- ・ 単位化について・・・事務局のシステムで可能。
- ・ 基本領域学会以外における専門医機構の共通講習については、確認が必要である。第 63 回春期大会では専門医機構の共通講習ならびに産婦人科、外科、病理の領域講習の単位習得は可能であることが確認された。

#### 計理委員会（委員長 田畑 務）【資料なし】

##### 〔報告事項〕

1. 2022年(令和4年)度の予算、事業計画、議事録(案)を3月末に内閣府に提出した。
2. 2022年4月13日に学会事務局およびWEB会議を併用し、監査会を行った。  
佐藤之俊理事長、田畑務計理委員会委員長、佐々木寛監事、土屋眞一監事、長村義之監事、中田公認会計士事務所 中田ちずこ氏、糸永圭一氏が出席、2021年度の会計について監査を行い、内容について適正であることを確認した。

##### 〔審議事項〕

1. 2021年度決算案について  
審議結果⇒承認(田畑委員長より詳細につき説明があり承認された。)
2. 収支相償剰余金および「(仮)公益社団法人化10周年記念事業」について  
審議結果⇒承認

#### 編集委員会（委員長 矢納 研二）【資料1～3】

##### 〔報告事項〕

1. 2022年1月から本日(4月23日)までに15編の論文が投稿され、編集作業中【資料1】。
2. 年間6回の電子ジャーナルの刊行、依頼稿年間6本を予定。
3. 春期大会、秋期大会開催中に2回、それ以外に4回の編集委員会を開催予定。
4. J-STAGE 運用に関する広報活動を、編集委員会幹事を主体として作成中(ホームページにQ&A形式の記事を掲載予定)
5. 論文投稿時チェックリストバージョンアップについて【資料2】
  - ・投稿規定と文言を一致させた。
  - ・チェックリストを横長→縦長へ変更した。
6. 日本臨床細胞学会学術集会(春期大会、秋期大会)発表の一部を、あらかじめ日本臨床細胞学会雑誌上への投稿義務付けとする規約を、検討中。2023年春期大会(藤井大会長)で試験的に実施し、結果を踏まえ再検討する。当初は論文の数的制限は設けずに試行する。【資料3】

##### 〔審議事項〕

なし

#### 細胞診専門医委員会（委員長 植田 政嗣）【資料なし】

##### 〔報告事項〕

1. 令和4年度細胞診専門医資格認定試験  
12月17日(土)AP浜松町にて実施予定。会場は既に仮予約済み。



新しい採点ソフトの納期は5月予定。本年より使用予定で準備を進めている。

2. 令和3年度教育研修指導医新規申請および資格更新

0573-0668

3. 令和4年度細胞診専門医資格更新

1-593、900-1005、1242-1308、1510-1587、1798-1876、2275-2366、

2673-2765、3052-3137、3405-3500、8018-8034、8056-8060

〔審議事項〕

なし

施設認定制度委員会（委員長 廣岡 保明）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 新規施設認定審査（施設認定、教育研修施設認定） 申請書提出締切：2022年4月30日（土）

2. 認定施設更新審査（認定施設、認定教育研修施設） 申請書提出締切：2022年3月31日（木）

2022年度更新対象施設は以下の予定

認定施設は81施設（0750-0799、0855-0869、0908-0916、0945-0951）

教育研修施設認定は56施設（0001-0044、0180-0190、0330）

3. 2021年度・年報提出依頼とその集計解析（認定施設、教育研修施設） 年報提出締切：2022年3月31日（木）

4. 2022年度・内部精度管理（実地調査 4カ所）：内部精度管理WG（浦野誠WG長）のもとで2022年7～9月頃実施予定（コロナ禍が遷延した場合は書類審査予定）

5. 外部精度管理（全認定施設でコントロールサーベイ）：外部精度管理WG（湊宏WG長）のもとで、2022年度に実施予定（2年毎に実施）

6. 2022年度 年報会議、内部精度管理WG、外部精度管理WGを行う

7. 以下の検討事項を現在施設認定制度委員会で審議中である。審議を終えたら理事会に諮る。

- ・施設認定に関する施行細則の整理について
- ・施設認定に関する施行細則・附則と精度管理ガイドラインの整理について
- ・施設認定に関する申請料について

〔審議事項〕

なし

細胞検査士委員会（委員長 都築 豊徳）【資料1】

〔報告事項〕

1. 2022年度（第55回）細胞検査士資格認定試験

一次試験は2022年10月29日(土)に、CIVI 研修センター新大阪東及び新大阪丸ビル別館にて実施予定。(詳細は当日報告)

二次試験は2022年12月3日(土)・4日(日)に、ウインクあいち(愛知県、名古屋市)にて実施予定。

## 2. 2023年CT(IAC)資格認定試験

2023年は実施予定。開催時期は6月を予定(基本的に土曜日を開催予定)。試験会場は東京都内を中心に検討中。

## 3. 東京都がん検診センター細胞検査士養成所閉所について、細胞検査士資格認定試験施行細則の変更(資料1)

[審議事項]

1. 使用会場の制限から、2020年度より二次試験での実技試験が実施困難な状況である。従って、細胞検査士の実技技能の検証が不十分なまま合否判定が行われている。実施会場が一般施設を利用することが今後も予想されており、従来行われてきた二次試験での実技技能試験の実施は今後も難しい可能性が高いと思われる。今後は日本臨床細胞学会が地域単位で講習会を行い、認定書を交付し、実技試験の代わりとすることを提言したい。実技試験実施に際しては、それぞれの地区の臨床細胞学会並びに検査士会の元で実行し、日本臨床細胞学会がその講習会を承認する方法を提案したい。

審議結果⇒継続審議

質疑：

- ・ 講習会を受講し認定を受けることを受験資格のひとつとするのか。→そうである。
  - ・ コロナの収束状況を見極めながら、早急に決定する必要はないのではないか。
  - ・ 養成コースを持っている大学などで現在行っている講習は認められないのか。→学会が認証する講習を受けるという形を原則とすることを考えている。
  - ・ 受験資格とするのであれば、講習の質の担保の上では講習会の内容を全国共通とすることがよいのではないか。
  - ・ 講習会の内容や時間についてはどの程度を想定しているのか。→内容については検討段階である。時間は半日～1日を考えている。
2. 以前より、CT(IAC)資格認定試験の実施は総会とは別に行っていた。総会にCT(IAC)資格認定試験を連結させることは出来ないかとの提言がある。しかしながら、実際には試験時間の確保は難しいのが現状である。今回も試験は別日程で単独実施としたい。

審議結果⇒承認(IACの担当者との調整を要する)

質疑：

- ・ FIAC試験は、従来通りCT(IAC)と同日に行う方向である。
- ・ IACより派遣される担当者との事務的連携を取ることが必要となる。

細胞検査士資格更新審査委員会(委員長 井上 健)【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2022 年度細胞検査士資格更新対象

1-8、9-68、195-272、440-584、913-1060、1354-1557、2259-2457、  
3120-3457、4210-4452、5135-5349、6051-6203、6749-6943、7686-7876、  
8613-8869、9559-9879

〔審議事項〕

なし

渉外・広報委員会（委員長 三上 芳喜）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 会員へ広報を行う。
2. 他学会との会議に参加し、情報を収集・共有することによって、本学会との連携を更にレベルアップする。
3. 広報事業として、学会の存在を更に周知させるために諸団体が開催する公開講座や関連学会を積極的に後援していく。
4. 2022 年 5 月 12 日に開催される医療関連サービス委員会中央委員会へ出席予定である。

〔審議事項〕

なし

社会保険委員会（委員長 若狭 朋子）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2024 年診療報酬改正に向け、要望書を作成するとともに、内保連、厚労省などと交渉を進め、あるいは対外的に活動していく。
2. 内保連からの「令和 4 年度診療報酬改定にかかる調査」について令和 4 年 3 月 25 日、回答した。病理学会社会保険委員会との協議の上、「感染対策加算」「国際標準病理診断管理加算」については一部要望が反映したと回答した。
3. 今後の予定  
2022 年 6 月 28 日 内保連総会  
2022 年 12 月上旬 内保連へ第一次提案書提出  
2023 年 4 月 内保連への提案書最終提出締切  
2023 年 4 月 内保連によるヒアリングの実施  
2023 年 5 月 内保連各委員会での最終調整締切  
2023 年 6 月 提案書を厚労省に提出  
2023 年 7 月 厚労省のヒアリング
- ・ 2022 年 12 月の内保連への第一次提案書提出に向け、ご意見をいただきたい。具体的には婦人科細胞診の診断料加算を目指したい。

佐藤之俊理事長より、理事の方々から色々な意見やアイデアを12月までにお寄せいただきたい旨のアナウンスがあった。

〔審議事項〕

なし

#### 地域連絡委員会（委員長 伊藤 潔）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 2019年度、2020年度都道府県地域連携組織・連合地域連携組織活動報告について：
  - ・2019年度報告書の不明部分を再度問い合わせし、修正中。
  - ・2020年度報告書の回収を終え、集計を行っている。
2. 地域連携組織に対する活動支援について：
  - ・2021年度の活動支援申請件数 41件  
実施内容報告書を提出した地域学会に対して、5万円を上限として支援している。
  - ・2022年度の地域連携組織に対する活動支援は、支援費用については5万円を上限とし、希望地域は2022年3月末日までに企画書を提出するように依頼した。

〔審議事項〕

なし

#### 制度審議委員会（委員長 宮城 悦子）【資料1～3】

〔報告事項〕

1. 細胞診専門医委員会より審議依頼があった「細胞診専門医資格更新実務に関する施行細則」改定案について令和4年3月17日（木）より3月27日（日）にメール審議を行った。内容は資料1 議事録参照。
2. 編集委員会より審議依頼があった「投稿規定チェックリスト」改定案について令和4年3月24日（木）より3月31日（金）にメール審議を行った。内容は資料2 議事録参照。
3. 細胞検査士委員会より審議依頼があった「細胞検査士資格認定試験施行細則」改定案について令和4年3月31日（金）より4月5日（火）にメール審議を行った。内容は資料3 議事録参照。
4. 第4回理事会にて承認された以下の項目の改定を行った。
  - ・JSCC内規・申合集 p.13 「公益社団法人日本臨床細胞学会雑誌投稿規定」
  - ・JSCC内規・申合集 p.26 「細胞検査士資格更新審査委員会申し合わせ事項」
  - ・定款・施行細則 p.46 「細胞診専門医資格更新実務に関する施行細則」
  - ・定款・施行細則 p.82 「学会発表・論文投稿倫理指針」※本文内に「カテゴリー分類フローチャート図（日本腹部救急医学会作成一部改変）」（日本臨床細胞学会ホームページ内）へのリンクを付与した。

〔審議事項〕

なし

医療安全委員会（委員長 藤井 多久磨）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 医療安全セミナー開催

第 62 回日本臨床細胞学会総会春期大会

演題名： 細胞診と医療の質・安全を考える

演者： 群馬大学大学院医学系研究科 医療の質・安全学 教授 小松康宏先生

座長： 近畿大学奈良病院 病理診断科 部長 若狭朋子先生

日時： 2021 年 6 月 5 日（土）15:40～16:40

第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会

演題名： 病理検査室における医療安全 ISO15189 の視点

演者： 岡山大学病院病理診断科 柳井広之先生

座長： 藤田医科大学医学部産婦人科学 教授 藤井多久磨

日時： 2021 年 11 月 20 日（土）17:00～18:00

2. MSC ホットラインの事例が発生した場合の体制を整えておく

（鑑定人およびそれに関する臨時の全域）

3. 医療安全セミナー開催予定

第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会

演題名： 未定

演者： 東京慈恵会医科大学附属病院 医療安全管理部門  
部門長 瀧浪將典先生

日時： 2022 年 6 月 11 日（土）15:40～16:40

4. 第 61 回秋期大会の医療安全セミナーで講演予定の水沼先生は、2019 年春期大会の同セミナーでも講演されており、内容が重複しないようにお願いしたい。

〔審議事項〕

なし

倫理委員会（委員長 伊藤 仁）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 学会発表・論文投稿倫理指針を細則に追加した。細則内に記載されている倫理審査の必要性を判定するための「別紙カテゴリー分類フローチャート図」は、その部分をクリックすると別ページで開くように設定した。
2. 学術集会演題募集の際の倫理指針について、細則の学会発表・論文投稿倫理指針および

別紙カテゴリー分類フローチャート図へリンクするよう学術集会大会長にお願いする。

〔審議事項〕

なし

#### 利益相反委員会（委員長 大平 達夫）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 役員および発表者(非会員含む)の事業活動に係わる COI 状態の判断ならびに助言、指導を行う。2020 年度の利益相反自己申告書は該当者全員から回答をいただいた。
2. 会員個人の COI 申告に関する疑惑が生じた時は調査活動、関係する施設・機関との情報交換、改善措置の勧告を行う。
3. 2022 年利益相反自己申告書の提出と回収。

〔審議事項〕

なし

#### 臨床試験審査委員会（委員長 小田 瑞恵）【資料なし】

〔報告事項〕

1. 臨床試験審査委員会を 1 回、春期大会で行う。(メールや Zoom 会議などで代用する場合もある)。
2. 現在進行中の臨床試験は以下の通りである。
  - ・「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」(CITRUS スタディ) (臨床試験主任研究者、青木大輔先生)
  - ・「呼吸器細胞診報告様式に関する研究」(臨床試験責任者、中澤匡男先生) の追加試験として、日本臨床細胞学会会員による新呼吸器細胞診報告様式の観察者間の一致率および教育効果による観察者間一致率の変動の検討 (管理責任者、佐藤之俊先生)
3. 臨床試験が提出された場合には、随時、審査を行う。

〔審議事項〕

なし

#### IAC 連絡委員会（委員長 青木 大輔）(代理：森谷 卓也)【資料 1】

〔報告事項〕

1. 第 21 回国際細胞学会 ICC2022 が第 70 回米国細胞病理学会との併催で 2022 年 11 月 15 日から 20 日まで米国 Baltimore にて開催される。the 70th Annual Scientific Meeting of the American Society of Cytopathology と同時開催。Abstract の募集が開始された (case report は受け付けない)。〆切は 2022 年 5 月 2 日。奮って応募されたい。本会からは森谷理事が中心となってプログラム (2022 年 11 月 19 日 JSCC

Companion Meeting) を提案した。(資料1)

〔審議事項〕

なし

#### 臨床試験ワーキンググループ (委員長 進 伸幸) 【資料あり】

〔報告事項〕

1. 2022 年事業計画として 下記の研究事業を昨年度に引き続き継続する。

『一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)』(山梨県、千葉県柏市)

・追跡調査 : 被験者の 6 年目の検診結果の把握も含めたデータの収集、解析作業、論文公表のために、研究期間を 2023 年 3 月 31 日までと 2 年間延長している。

・データの解析、論文化 : 研究期間内を目途に作成。論文には本学会から研究費を含め人的、物的な援助を受けたことを明記する。2022 年度前半までフォローアップを行い、データフィックスを目指す予定である。

〔審議事項〕

なし

#### ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ (委員長 森井 英一)

【資料なし】

〔報告事項〕

1. 会議をメールおよびオンラインで複数回を行い、指針初版の英語版校正を行っており、現在最終段階にある。並行して実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を立てている。
2. ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。
3. 検証結果をもとに指針をリニューアルする。

〔審議事項〕

なし

#### ゲノム時代における呼吸器細胞診検体処理の精度管理ワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊) 【資料なし】

〔報告事項〕

1. ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループの事業に協力し、がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針作成の一部を担当する。

2. 液状化検体細胞診における検討を進める。

〔審議事項〕

なし

肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ (委員長 佐藤 之俊)【資料なし】

〔報告事項〕

1. IAC-WHO/IARC が進める呼吸器細胞診国際基準の出版に協力する。
2. 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力する。
3. 構造異型の所見の標準化を目指し、細胞所見の WEB 公開を目指す。
4. 異型細胞に関する検討を進める。
5. 新たに提案した 4 段階の判定基準に関する検討 (WEB でアンケートを収集するなど) を進める。
6. Acta Cytologica に採択された論文の写真が学会誌 (Vol. 66, No. 2, 2022) の表紙を飾った。

〔審議事項〕

なし

IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也)【資料なし】

〔報告事項〕

1. 本邦におけるデータの収集を行い、解析中 (継続)。多施設共同研究を 2023 年 1 月まで延長する。
2. 成果を学会および論文で発表する。
3. 乳癌取扱い規約 (日本乳癌学会) の改定に際し審議事項として取り上げられており、掲載されるよう働きかけ行う。

〔審議事項〕

なし

細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ (委員長 森谷 卓也)【資料なし】

〔報告事項〕

1. 各小委員会の改訂案が 3 月末に揃ったため、現在見直し作業中である。
2. その後、委員会内で相互チェック、修正を行う予定である。
3. 2022 年秋期大会において、3 領域に絞って解説をする機会を得た。
4. 改定した内容を学会ホームページ等で公表する (5 月末に PDF として upload 予定)。
5. 2025 年の全面改訂に向けた課題を明らかにする。

〔審議事項〕

なし



## デジタルサイトロジー・AI 検討ワーキンググループ（委員長 前田 一郎）

### 【資料なし】

#### 〔報告事項〕

1. デジタルサイトロジー・パソロジーで導入状況の調査
2. デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器の調査

#### 〔審議事項〕

なし

## 公益社団法人化 10 周年記念事業検討ワーキンググループ（委員長 佐藤 之俊）

### 【資料なし】

#### 〔報告事項〕

1. 理事長直属のワーキンググループを組織し、事業内容の詳細を決定し推進する。
2. 10 周年記念講演会について  
2024 年 4 月 28 日（日）に記念講演会を予定している。日程は、日本医学会会長や主な学会の会長などと調整を行った。場所は東京フォーラムを予定しており、講演会および祝賀会が行われる。6 月に予算案を内閣府へ提出する必要がある。

#### 〔審議事項〕

なし

## その他

#### 〔報告事項〕

1. 会員資格停止者および会員資格復帰希望者については、2022 年度第 2 回理事会で審議予定。
2. 2023-2024 年度役員選出  
森井英一評議員選出委員会委員長より以下の報告がなされた。  
評議員選出へは 503 名の応募があり 457 名の候補者が確定した。評議員の辞退表明期限は 5 月 31 日とし、6 月 10 日の理事会での承認を経て確定へ。
3. 2022 年度第 1 回常務理事会について  
各学会の開催日程を鑑み、10 月 2 日（日）とする。

#### 【審議事項】

1. 2021 年度事業報告案について（0.03\_2021 年度事業報告案）

審議結果⇒承認（佐藤之俊理事長より説明があり承認された。）

## 2. 総会案内一式（0.07\_総会案内一式）

第63回春期大会時に開催される総会より、WEB上のアンケート機能を用いた委任状が使用可能となる。5月1日からwebアンケート機能での返信が可能となるが、ハガキでの返事も同時に行う。総会は6月11日にストリーミング配信も予定する。

審議結果⇒承認（WEBでの委任状は、郵送費の面でも経費削減につながる）

## 3. 春期大会期間中のビジネスミーティングのあり方について

学術集会のあり方に関する申し合わせでは、原則は前日に現地での対面開催としていたが、コロナの状況に応じ臨機応変にWEBを活用して行うこととする。ただし必要性が高いものは対面開催とする。

審議結果⇒承認

質疑：

- ・ 委員会は、できるだけオンラインで事前に話し合いを持ち、結論が出ない案件がある場合のみ対面開催としてはどうか。
- ・ 委員に対し、対面で日頃の活動への謝意を伝える場があった方がよいのでは。
- ・ 事前に会議の開催方式（対面またはオンライン）を各委員長に決定してもらい、会議室の調整をする。

## 4. 内保連対応について（長村義之監事）

細胞診診断料加算が採用されなかったことについて、判断基準となったのは何かを調査すべきで、その情報を今後の種々の要望が採用されるように生かしていく必要がある。

---

以上でインターネット会議システムを併用した本理事会は、終始異状なく議題の審議を終了し、岡本愛光副理事長の閉会挨拶をもって終了した。

2022年5月13日


この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐藤 之俊



監事 長村 義之



監事 佐々木 寛 

監事 土屋 眞一 